静岡県の農林水産業の概要

特徴・取組

静岡県は太平洋に面し、東西155km、南北118km、7,777㎢の面積を有する。伊豆半島が平成30年にユネスコ世界ジオパークに認定されるなど、変化に富んだ自然は、日本の豊かな風土の縮図といえる。全般的に温暖な海洋性気候であり、冬は乾燥して晴天が多く、平地での降雪はほとんどない。このため、年間日照時間は全国上位となっている。

静岡県の経済規模は、人口、県内総生産をはじめとして多くの指標で「全国10位」、数量的に占める割合はほぼ３％で、全国の「３％経済」と言われている。また、「日本経済の縮図」とも言われ、輸出型産業が多い構造となっている。

静岡県では、代表的な農産物である茶とみかんのほかにも温室メロンやいちご、ガーベラ等、多種多様な農産物が栽培されており、平成25年５月に「茶草場(ちゃぐさば)農法」、平成30年３月に「静岡水わさびの伝統栽培」が世界農業遺産に認定された。

また、令和元年12月に「石部(いしぶ)棚田」、令和２年６月に「千框(せんがまち)棚田」、令和３年６月に「久留女木(くるめき)棚田」、「滝沢・鷲沢(わしざわ)棚田」が、棚田地域振興法に基づく指定棚田地域に指定された。

林業では、天竜川流域のスギやヒノキ、伊豆地域の広葉樹林など、豊かで多彩な森林が広がっており、わさびやきのこの生産も盛んである。

水産業では、かつお・まぐろ、沿岸におけるしらす・さくらえび、内水面でのにじますの養殖など、多種多様な水産物が水揚げ・生産されており、水産加工業も盛んである。

地理的表示（GI）保護制度については、平成28年10月に「三島馬鈴薯」、平成29年６月に生の「田子の浦しらす」、令和２年11月に「西浦みかん寿太郎」、令和３年３月に釜揚げした「田子の浦しらす」が登録産品となり、令和５年３月には「深蒸し菊川茶」も登録された。

全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた県産農林水産物を「しずおか食セレクション」として認定し、県産農林水産物の魅力を活かした新しい加工品を「ふじのくに新商品セレクション」として表彰するなど、「食の都」づくりを進めている。

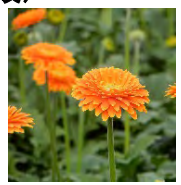
AOI機構(平成29年４月17日設立)において、農林水産業及び関連産業分野における革新的な技術開発及び事業化などの新たな価値の創造を複数の主体の協働により実現するオープンイノベーションの支援を実施している。

主な農林水産物

茶

県内各地に有名産地があり、様々なブランド茶が生産されている。県の海外向け重点品目。
（生産量全国１位(荒茶)）

ガーベラ（切り花類）



全国の出荷量の約４割を占める大産地。花弁が大きく華やかで色の種類や品種数が多い。
（出荷量全国１位）

温室メロン

メロンの中でも最高級品である温室メロンは収穫量日本一。ガラス温室で栽培されている。県の海外向け重点品目。
（収穫量全国１位）

かつお・まぐろ類

遠洋漁業や沖合漁業で獲れたかつおやまぐろが水揚げされ、加工品の原料としても利用されている。
（漁獲量全国１位）

さくらえび

国内では駿河湾だけで漁獲される特産品である。
（漁獲量全国１位）

みかん

温暖な気候を生かした柑橘類の栽培が盛んで、青島みかんなどが栽培されている。
（収穫量全国３位）

わさび（根茎、葉柄）

わさび栽培発祥の地で、産出額は全国１位。澄んだ辛味と清らかな香りが持ち味。県の海外向け重点品目。
（生産量全国１位(根茎)、３位(葉柄)）

静岡型銘柄豚「ふじのくに」

県中小家畜研究センターが改良した豚銘柄の総称。肉の繊維が細かいため、柔らかく保性が高いのが特徴。

にじます（養殖）

清浄な水が豊富な富士山麓を中心に養殖されている。
（収獲量全国１位）

しらす

漁場と市場が近いため鮮度が良く、「生しらす」としても出荷されている。
（漁獲量全国３位）

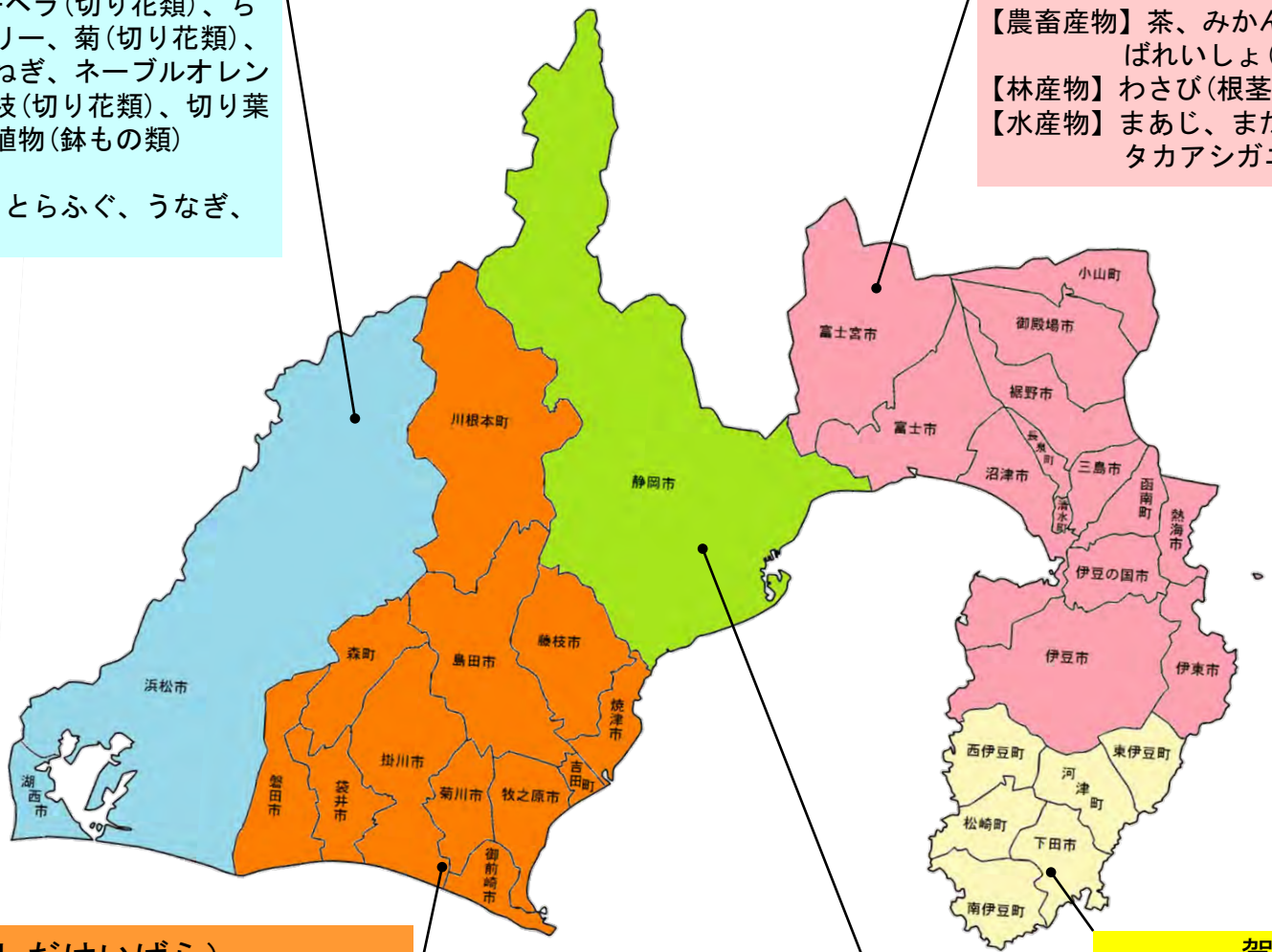
静岡県内の各地域における農林水産物

西部地域

【農産物】茶、みかん、ガーベラ(切り花類)、ちんげんさい、セルリー、菊(切り花類)、ばれいしょ、たまねぎ、ネーブルオレンジ、みつば、切り枝(切り花類)、切り葉(切り花類)、観葉植物(鉢もの類)
【林産物】しいたけ
【水産物】あさり、しらす、とらふぐ、うなぎ、生のり類（養殖）

富士・東部地域

【農畜産物】茶、みかん、水稲、いちご、ミニトマト、ばれいしょ(三島馬鈴薯)、鶏卵、生乳
【林産物】わさび(根茎、葉柄)、しいたけ
【水産物】まあじ、まだい、にじます(養殖)、しらす、タカアシガニ



志太榛原（しだはいばら）・中遠（ちゅうえん）地域

【農産物】茶、水稲、いちご、温室メロン、レタス、しそ、ガーベラ(切り花類)、ちんげんさい、ばら(切り花類)、トルコギキョウ(切り花類)、観葉植物(鉢もの類)、花木類(鉢もの類)
【林産物】しいたけ
【水産物】かつお、まぐろ、しらす、とらふぐ、うなぎ

中部地域

【農産物】茶、みかん、いちご、ばら(切り花類)、洋ラン類(切り花類、鉢もの類)
【林産物】わさび(根茎、葉柄)
【水産物】まぐろ、さくらえび、しらす

賀茂（かも）地域

【農産物】マーガレット(切り花類)、カーネーション(切り花類)、ヒュウガナツ(日向夏)
【林産物】わさび(根茎、葉柄)
【水産物】いせえび、てんぐさ、きんめだい

出典：「静岡県の農林水産業」(静岡県)、
「静岡県産農芸品カタログ『食材の王国』」(JA静岡経済連)を基に作成

静　岡　県　の　農　業　（　1　）

・耕地面積は６万400haで全国22位。うち田が２万1,400ha、畑が３万9,000ha。
・農業経営体数は２万5,938経営体で全国20位。うち法人経営体が634経営体で21位。
・認定農業者数は4,761経営体で全国19位。うち法人が562法人で20位。

耕地面積

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
耕地面積	60,400 ha	4,325,000 ha	22
田	21,400 ha	2,352,000 ha	36
畑	39,000 ha	1,973,000 ha	11
普通畑	14,600 ha	1,123,000 ha	19
樹園地	23,200 ha	258,600 ha	1
牧草地	1,140 ha	591,300 ha	15
参考）総土地面積	777,702 ha	37,797,356 ha	13

出典：「令和4年耕地面積（7月15日現在）」、「令和5年全国都道府県市区町村別面積調（1月1日時点）」（国土交通省国土地理院）

荒廃農地面積

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
荒廃農地面積	5,902 ha	259,502 ha	21

出典：「令和3年度の都道府県別の荒廃農地の発生状況」

担い手への農地の集積状況

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
担い手への集積面積	27,524 ha	2,560,109 ha	21
集積率	44.8 %	58.9 %	19

出典：「農地中間管理機構の実績等に関する資料（令和3年度版）」

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方
・令和5年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
・表中に使用した記号は次のとおり
「0」：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）
「－」：事実のないもの
「…」：調査を欠くもの
「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。
「＊」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
農業経営体数	25,938 経営体	1,075,705 経営体	20
法人経営体	634 経営体	30,707 経営体	21
総農家数	50,736 戸	1,747,079 戸	9
販売農家	24,426 戸	1,027,892 戸	20
参考）世帯総数	1,483,472 世帯	55,830,154 世帯	10
集落営農数	30 集落営農	14,364 集落営農	40

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）、「集落営農実態調査（令和4年2月1日現在）」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
基幹的農業従事者数	38,720 人	1,363,038 人	13
男	22,161 人	822,144 人	17
女	16,559 人	540,894 人	11
65歳以上	27,326 人	948,621 人	13
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	70.6 %	69.6 %	－
認定農業者数	4,761 経営体	222,442 経営体	19
法人数	562 法人	27,974 法人	20
参考）総人口数	3,633,202 人	126,146,099 人	10

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」、「認定農業者の認定状況（令和4年3月末現在）」、「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

静　岡　県　の　農　業　（　２　）

・農業産出額は2,084億円で全国15位。うち花きが168億円、加工農産物が122億円。
・農畜産物の生産状況は、茶（荒茶）、ガーベラ（切り花類）、切り枝（切り花類）が全国１位、茶（生葉）が２位。
・農業生産関連事業は、農産加工の年間販売金額が603億円で全国２位、事業体数は1,130事業体で５位。

農業産出額

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
農業産出額	2,084 億円	88,384 億円	15
米	162 億円	13,699 億円	31
麦類	x 億円	709 億円	－ ＊
雑穀	0 億円	78 億円	32
豆類	0 億円	697 億円	40
いも類	40 億円	2,358 億円	9
野菜	591 億円	21,467 億円	14
果実	282 億円	9,159 億円	10
花き	168 億円	3,306 億円	3
工芸農作物	148 億円	1,727 億円	4
その他作物	x 億円	587 億円	－ ＊
畜産	544 億円	34,048 億円	17
肉用牛	77 億円	8,232 億円	25
乳用牛	108 億円	9,222 億円	13
生乳	97 億円	7,861 億円	13
豚	56 億円	6,360 億円	24
鶏	271 億円	9,364 億円	12
鶏卵	233 億円	5,470 億円	7
ブロイラー	30 億円	3,740 億円	22 ＊
その他畜産物	32 億円	869 億円	2
加工農産物	122 億円	549 億円	2

出典：「令和3年生産農業所得統計」

農畜産物の生産状況

区　分		年次	静　岡　県	全　国	全国順位
茶（荒茶）	生産量	R4	28,600 t	69,900 t	1
茶（生葉）	収穫量	R4	129,200 t	331,100 t	2
ちんげんさい	収穫量	R3	7,330 t	41,800 t	2
セルリー	収穫量	R3	5,760 t	30,000 t	2
いちご	収穫量	R3	10,500 t	164,800 t	6
みかん	収穫量	R3	99,700 t	749,000 t	3
ばら（切り花類）	出荷量	R3	19,200 千本	194,400 千本	2
ガーベラ（切り花類）	出荷量	R3	52,300 千本	122,600 千本	1
切り枝（切り花類）	出荷量	R3	31,500 千本	202,500 千本	1
観葉植物（鉢もの類）	出荷量	R3	5,190 千鉢	42,900 千鉢	2

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区　分		静　岡　県	全　国	全国順位
農産加工	総額	60,279 百万円	953,268 百万円	2
	事業体数	1,130 事業体	30,550 事業体	5
農産物直売所	総額	42,154 百万円	1,046,385 百万円	5
	事業体数	1,050 事業体	22,680 事業体	3
観光農園	総額	1,577 百万円	32,634 百万円	6
	経営体数	170 経営体	4,990 経営体	11
農家民宿	総額	45 百万円	3,992 百万円	21 ＊
	経営体数	10 経営体	1,180 経営体	25 ＊
農家レストラン	総額	693 百万円	30,336 百万円	18 ＊
	事業体数	40 事業体	1,260 事業体	5 ＊

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

静　岡　県　の　林　業

・林業産出額は137億円で全国９位。うち木材生産が64億円、栽培きのこ類生産が73億円。
・林産物の生産状況は、素材生産量が全国12位、わさび根茎が１位、まいたけが２位。

林業産出額

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
林業産出額	137.0 億円	5,456.6 億円	9
木材生産	63.8 億円	3,254.1 億円	15 ＊
栽培きのこ類生産	72.9 億円	2,091.6 億円	5

出典：「令和3年林業産出額」

林野面積

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
林野面積	493,121 ha	24,770,201 ha	16
国有林	85,325 ha	7,153,338 ha	16
民有林	407,796 ha	17,616,863 ha	16
人工林面積	278,162 ha	10,133,111 ha	10

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」

林業経営体数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
林業経営体数	837 経営体	34,001 経営体	16
法人経営体	103 経営体	4,093 経営体	14

出典：「2020年農林業センサス（令和2年2月1日現在）」

林産物の生産状況

区　分		静　岡　県	全　国	全国順位
素材生産量		608 千㎥	21,847 千㎥	12 ＊
針葉樹		608 千㎥	20,088 千㎥	9
すぎ		248 千㎥	12,917 千㎥	16
ひのき		218 千㎥	3,079 千㎥	4
広葉樹		0 千㎥	1,759 千㎥	43 ＊
わさび根茎	生産量	235 t	427 t	1
まいたけ	生産量	5,102 t	54,521 t	2 ＊
わさび葉柄	生産量	255 t	1,459 t	3
ぶなしめじ	生産量	3,181 t	119,545 t	4 ＊

出典：「令和3年木材需給報告書」、「令和3年特用林産基礎資料」

製材工場数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
工場数	153 工場	3,948 工場	4
製材用素材の入荷があった工場数	147 工場	3,892 工場	4
国産材のみ	110 工場	3,138 工場	7
国産材と輸入材	33 工場	607 工場	1

出典：「令和3年木材需給報告書」

静　岡　県　の　漁　業

・漁業産出額は459億円で全国７位。
・水産物の生産状況は、海面漁業のまぐろ類、かつお類が全国１位、海面養殖業のまあじが１位、内水面養殖業のにじますが１位。
・漁業生産関連事業は、漁家民宿の年間販売金額が４億円で全国３位、経営体数は70経営体で２位。

漁業産出額

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	459 億円	12,103 億円	7

出典：「令和2年漁業産出額」

漁業経営体数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
海面漁業経営体数	2,200 経営体	79,067 経営体	14
内水面漁業経営体数	120 経営体	4,772 経営体	11

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」

漁業就業者数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
海面漁業就業者数	4,814 人	151,701 人	11
男	4,635 人	134,186 人	9
女	179 人	17,515 人	20

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」

漁船隻数

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
漁船隻数	3,079 隻	132,201 隻	18
動力漁船	1,917 隻	69,920 隻	14

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月１日現在）」

水産物の生産状況

区　分	静　岡　県	全　国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	251,671 t	4,163,072 t	4 ＊
海面漁業漁獲量	249,515 t	3,236,431 t	3
まぐろ類	28,224 t	148,864 t	1 ＊
かつお類	86,282 t	251,735 t	1 ＊
海面養殖業収獲量	2,156 t	926,641 t	24 ＊
まあじ	278 t	586 t	1 ＊
生のり類	352 t	1,513 t	1 ＊
内水面漁業・養殖業生産量	2,575 t	51,757 t	8 ＊
内水面漁業漁獲量	0 t	18,904 t	41
内水面養殖業収獲量	2,575 t	32,854 t	4 ＊
にじます	897 t	4,161 t	1 ＊

出典：「令和3年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区　分		静　岡　県	全　国	全国順位
水産加工	総額	1,004 百万円	170,100 百万円	25 ＊
	事業体数	50 事業体	1,470 事業体	7 ＊
水産物直売所	総額	1,037 百万円	32,443 百万円	10 ＊
	事業体数	40 事業体	820 事業体	5 ＊
漁家民宿	総額	428 百万円	5,553 百万円	3 ＊
	経営体数	70 経営体	800 経営体	2 ＊
漁家レストラン	総額	505 百万円	9,696 百万円	7 ＊
	事業体数	40 事業体	430 事業体	1 ＊

出典：「令和3年度6次産業化総合調査」

静岡県の農林水産業の話題等

世界かんがい施設遺産　新たに２施設登録

令和４年10月、磐田市の寺谷（てらだに）用水と沼津市の香貫（かぬき）用水が「世界かんがい施設遺産」に新たに登録された。既に登録されている深良（ふから）用水（裾野市他）、源兵衛川（げんべえがわ）（三島市）と併せて、計４施設となった。

○ 寺谷用水は1590年に完成し、大河川の治水と利水を一体的に行う革新的なかんがい技術導入の先駆けとなり、その技術は日本のかんがいの進展に大きな影響を与えた。現在も寺谷用水土地改良区や水利組合により、用水及び施設管理が継続されている。

○ 香貫用水は、水不足に苦しんでいた香貫地区に安定した農業用水を供給するため、17世紀初期に建設された総延長約５kmの農業用水路で、「香貫二千石」といわれた農業発展の礎となった。現在は農業発展のみならず、防災施設としての役割も担っている。

寺谷用水（磐田市）
大河川から取水する広域かんがいシステムの草分け

香貫用水（沼津市）
農業発展の礎を築き、地域を見守る水路

（株）鈴生（すずなり）が「スマート養蚕」ビジネスモデルの開発へ

農業法人の（株）鈴生は、有機桑のスマート栽培化と人工飼料の開発により、CO2及び食品ロス削減を図る養蚕事業に乗り出す。令和４年度、第一工業製薬（株）と「静岡スマート養蚕コンソーシアム」を組織し、農研機構、蚕のベンチャー企業、県内外の茶農家と連携して取り組む。

県内の茶の生産技術を生かし、乗用茶刈り機により効率的に桑を摘採し、併せて、桑の木の植栽間隔など茶刈り機に適した栽培方式を開発する。また、有機桑と、鈴生が生産する野菜や民間企業の食品残さなどを有効利用し、環境に負荷をかけず、安全で低コストな人工飼料を開発する。さらに、医療品や化粧品などの原料として国際的に価格競争力がある、高付加価値・高品質な繭のタンパク質「シルクプロテイン」やサナギの新たな利活用の方法を開発する計画である。令和４年２月に10aの造成から出発した桑畑は、将来、10haの栽培を目指す。

（株）鈴生の桑園

人工飼料による
蚕の飼育

ＡＩで環境を常時制御する次世代型植物工場が本格稼働

令和４年12月、ブロックファーム合同会社（沼津市）が、ホウレンソウを大量生産する植物工場を本格稼働させた。工場内の環境を人工知能（ＡＩ）で常時制御するシステムを導入し、工場生産が進むレタスに比べて生産が難しいホウレンソウの量産を実現した。生産量を段階的に増やし、日産１トン体制から令和５年秋頃には日産３トン体制になる見込み。主に通年で一定の需要がある飲食店やコンビニ向けの工場に出荷する。

屋上には太陽光発電パネルを設置し、必要な電力の約15%を賄う。各区画の空調を循環させる機械を導入し、温度調整のコストを減らすなどにより、使用電力を従来比約50%削減した。

今後は施設の余剰スペースを活用し、冷凍野菜などを生産するために冷凍機能を備えた施設を導入することにより、栽培・加工・冷凍の全工程を工場に集約し、収益力を高める計画。

ブロックファーム植物工場の外観（正面）